



5



4



庄原市制施行 10周年 記念特集

vol.3

生涯学習の視点での10年

合併から10年を振り返るシリーズ。
今月は生涯学習をテーマにお届けします。



6

受け継がれてきた伝統芸能

文化財の中でも、とりわけ民俗文化財は、そこに生きる人々の暮らしと共に守り継がれ、人と人との絆や地域のつながりを育む上で重要な役割を果たしてきました。国指定の比婆荒神楽を含む15件の指定無形民俗文化財が、保存団体などによって大切に守り継がれています。

しかし、近年、地域の伝統的行事が失われつつあり、民俗文化財の継承が危ぶまれている現状から、その思いを共有する地域・保存団体・行政が協働・連携する組織「庄原市民俗芸能振興協議会」が平成19年2月1日に結成。ここから文化財を次世代へ伝えるための全体的な取り組みがスタートしました。



1 歴史・文化の伝承

博物館・資料館が伝える 里山文化

市内の7地域は、それぞれ市町として歴史を刻み、美しい里山環境のもとで、心豊かな生活と文化を育んできました。それは、たたら製鉄に象徴される「里山文化」であり、それぞれの地域で培われた多様な個性豊かな資源・財産が存在しています。

現在、国・県・市の指定を受けた文化財が243件あり、ここで暮らしてきた人々や自然の営みを後世に伝える

貴重な資料です。そして、これらを記録・展示する博物館や資料館が市内には多くあり、郷土の歴史・文化を知ることが出来ます。

平成24年度には、中国山地でクジラウォッチングができた博物館「比和自然科学博物館地学分館」がオープン。本市は、発見されたクジラ化石の種類・数とも日本一を誇り、同館は世界的にも貴重なクジラの化石資料が見られることから、国内外から注目を集めています。

さらに23年度からは「文化財ガイド養成講座」を実施し、この講座から誕生したガイドが、学校や自治振興センターなどで郷土学習の講師を務めています。

これらの事業を推進することで、古里に愛着を持つ人が増え、郷土文化の継承へとつながることが期待されます。

郷土愛を育む事業を展開

こうした本市の伝統や文化・自然・歴史などについて理解を深め、興味や関心を高めてもらおうと、市は「郷土学習支援事業」を展開しています。

学校や地域を対象に、博物館・資料館を見学するバスの貸し出しを23年度からスタートし、24年度からは出前講座や資料の貸し出し、体験メニューを用意して、郷土を学ぶ機会を提供。事業を利用する学校や地域が年々増えていきます。



7



3



2

1_比和牛供養田植 / 2_比和自然科学博物館地学分館 / 3_比婆荒神楽 / 4_塩原の大山供養田植 / 5_比婆荒神楽子ども神楽塾 / 6_文化財ガイド養成講座 / 7_郷土学習支援事業による出前講座



比和町郷土芸能振興会 会長
若林隆志 さん

4年に1度比和牛供養田植を実施しています。現在、来年の開催に向け準備を始めています。

この催事で一番大変なのが牛の確保です。大山信仰を起源とする牛の供養を主眼に置いていますので、毎回供養牛の確保が欠かせません。

また、供養田や人手の確保にも課題がありますが、地域

の方や自治振興区の皆さんにご協力をいただきながら取り組んでいます。

私たちにはこうした文化を伝承していく責任があります。そのためには、この地域でないと経験できないものを今の子どもに教えていくことが大切です。ここでは比和中学校の生徒に牛供養田植を指導していますが、地域の誇りを持てるものであれば、神楽でも、供養田植でもいいと思います。そのことが生まれ育った地を誇りに感じ、地域を愛する心につながるのだと思います。

将来、地域を離れたとしても、こうした経験や思い出は、地域とつながる礎になると思います。



庄原市民俗芸能振興協議会 会長
横山邦和 さん

郷土芸能の継承は大きな課題です。継承には、まず自分の住んでいる地域に誇りを持つこと。そうでなければ郷土芸能に誇りも持てませんし、地域の存続はありえません。

私が指導している子ども神楽塾では、子どもたちが比婆荒神楽に魅力を感じて、頑張ってくれています。この積み重

ねが、自信と誇りへと変わり、郷土を愛する気持ちにつながってくればという思いです。うれしいことに、神楽塾を卒業した子が比婆荒神楽社に加入してくれています。この継承が比婆荒神楽の継承につながっていくものと期待しています。

郷土芸能は大きな誇りであり財産です。戦後70年経ちますが、子どもたちが価値ある伝統文化をきちんと受け継ぎ、古里を盛り上げてくれることが一番の願いです。

それには、庄原市民俗芸能大会などの発表の場は大切です。気持ちの張り合いにもなり、出演団体の活力にもなりますので、継続して開催していきたいと思っています。



2 読書活動の推進

子どもの読書環境を整備

読書は子どもたちの知識や経験を豊かにし、人格形成の上で大きな役割を果たします。市は「庄原市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動推進に向け、さまざまな取り組みを展開しています。

市立図書館では、読書活動ボランティアを養成する「お話しボランティア講座」を開設し、読書ボランティアの皆さんによる学校での「朝の読書活動」を応援しています。また、赤ちゃんに絵本を届ける活動や図書館内の子どもコーナーの充実など、読書環境の整備に努めています。

さらに、小学生を対象に子どもの読書活動を進めるリーダーを養成する「子ども司書事業」などによって、「読書習慣が身に付く」「本が好きになる」といった成果に結びつけてきています。

本年度からは学校図書館担当職員を4人から10人に増員し、読書が児童生徒にとって、より身近なものになるよう学校図書館の運営や自主的な読書活動を支援し、日常的な「読む」「調べる」という習慣の確立を目指しています。

市民に身近な図書館へ

市立図書館では25年6月に図書館システムを更新。これに合わせ、図書利用カードを便利なりライトカードに変え、ホームページもより見やすく使いやすいものになりリニューアルしました。また、貸出中図書のインターネット予約が可能になりました。26年4月からは開館日・開館時間を見直し、特に西城分館の連携・支援、専門的ニーズに対応できる体制づくりなど、市民にとってより身近で利用しやすい図書館づくりを目指していきます。

※ライトカード：カードに借りた本の名・返却日など直接文字を印字・消去でき、繰り返し使用できる貸し出しカード。

- 1_おはなしのいずみによるおはなし会
- 2_3_赤ちゃんに読み聞かせする子ども司書
- 4_さくらスポーツクラブによるグラウンドゴルフ教室
- 5_レベルアップスポーツ教室



2



読み語りボランティア
おはなしのいずみ 代表
立花有佐さん

合併直後に市立図書館で開催された読書ボランティア講座がきっかけで、地域で活動していた読書ボランティアが集まり、「おはなしのいずみ」がスタートしました。今年で結成して10年を迎えます。現在、子ども司書を経験した小学生から70代までの27人で活動しています。

主に月に一回、図書館でおはなし会を行ったり、市と連携して乳幼児の健診会場で赤ちゃんに絵本を手渡したりしています。いつも図書館と話し合いながら、本に親しんでもらう活動に取り組んでいます。

絵本を読むだけで子どもたちの目が輝きます。1冊の本が人生の助けになることもあると思います。子どもたちが本に親しみ、本を好きになってくれるように、本の奥深さ、すばらしさを伝えていきたい。10年活動してこれたことに感謝し、これまで関わっていただいている皆さんとの関係を大事に、今後も地道に活動を続けていきたいと思っています。



3

市民ひとり
1 スポーツの実現へ

スポーツは体力の維持向上、健康長寿の礎であり、地域の活性化などにも貢献しています。明るく豊かで活力に満ちた社会をつくる上で欠かせないことから、市は19年3月にスポーツ振興基本計画を策定。「生涯スポーツ社会」実現のため、「市民ひとり1スポーツ」を掲げ、「スポーツに親しむ機会の充実」「地域スポーツの振興」「総合型地域スポーツクラブの育成」「関係団体との連携と情報発信と共有」「競技力の向上・ジュニアスポーツの振興」という基本体系を設定し、具体的な取り組みをすすめてきました。

その中で特に注目されるのが総合型地域スポーツクラブの育成です。18年2月に県北地域で初めて設立された総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」は住民主体で運営されており、市民総合体育館を拠点にさまざまなスポーツ教室が行われています。19年度には年間を通じて11種目延べ4800人余りが参加。定期種目は変わりつつも26年度には延べ6千人が

競技スポーツの振興

参加するなど定着してきました。今後は、同様のスポーツクラブが市内各地域に広がっていくことが期待されます。

また、スポーツは青少年の心身の健全な発達を促したり、フェアプレーの精神を培ったり、コミュニケーション能力を養うといった効果をもたら

らすことから、本市の将来を担う子どもたちがスポーツに親しめる環境づくりに取り組んできました。

本市出身の選手が世界や全国で活躍する姿は、夢と感動と元気を与えてくれるとともに、郷土愛の醸成にも大きく寄与することから、そうした場面で活躍できるトップレベルの選手の育成にも力を入れています。

その取り組みのひとつとして20年度から開催されている

レベルアップスポーツ教室では、各種のスポーツ選手を招きトップレベルの経験と卓越した技術を学ぶことで、競技力や技術の向上につながっています。

さらに本年度からアスリート教室がスタート。市内小学生を対象に、陸上競技の専門知識を有する指導者が1年を通じて指導を行い、基礎体力の向上と将来のオリンピックなどで活躍するアスリートの養成を目指します。

3 スポーツの振興



4

NPO法人 ボラーノ
瀧口和博さん



これまで自主事業として、期間限定で年12回のアスリート教室を行っていましたが、今年からは市バックアップのもと1年を通して30回の陸上競技教室を行います。

ねらいとしては子どもたちの基礎体力づくりと、庄原市の陸上の底上げをすること。この教室から将来トップアスリートが出てきてくれたらと期待しています。

それには大会参加を経験させ、目標を持たせること。6月20日には4年生以上の小学生を対象に陸上記録会を行います。この記録会は10月に開催される県民体育大会の選考会も兼ねているので、記録が良ければ県民体育大会に出場できます。昔と比較して、小学生のうちから全国大会へ出場できるチャンスが高くなっているため、こうした大会の経験が、子どもたちの可能性を広げると考えていますし、他の競技をしている子にも、陸上に興味を持ってもらえるきっかけになればと思っています。



5